

報告

## 2014 年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告 2 ——岩手県在住台湾人留学生とのフリーディスカッション報告——

### Survey on Flights between Taiwan's Taoyuan International Airport and Japan's Iwate-Hanamaki Airport in 2014 II : Free Discussion with Taiwanese Exchange Students in Iwate

原 英子\*  
Eiko HARA

**Keywords:** *Iwate-Hanamaki Airport, Taiwanese exchange students, Free discussion about Iwate*  
いわて花巻空港 台湾人留学生 岩手についてのフリーディスカッション

#### 1. はじめに

2014 年 6 月 9 日、岩手大学学務部国際課の協力で、岩手大学国際交流センターに岩手県で勉強している台湾からの留学生たちに集まってもらい「台湾における岩手県の認知度、知名度アップのための方策等についてのフリーディスカッション」をおこなった。

台湾からの留学生を対象としたアンケート調査も同時におこなったので、これらの結果について報告する。

#### 2 台湾と岩手の大学間交流の背景

現在、岩手県下の大学で台湾の大学と交流している大学は少ない。その影響もあるとおもわれるが、台湾からの留学生や岩手県から台湾へ留学している学生数は少ない。まずはフリーディスカッションに先立って、岩手県における台湾人留学生の状況について示しておく。台湾の学生がどこに留学するのかは、台湾における岩手県の認知度を示すひとつの指標となると考えられる。

##### 2-1 岩手県の台湾からの留学生数

###### 2-1-1 台湾から岩手大学への留学状況

岩手県では、岩手大学に台湾からの留学生がみられる。同大学のウェブサイトによると、台湾の高雄師範大学と 2011 年 7 月に学術交流の締結をおこなった<sup>1</sup>。以後、台湾との学生交流

は全学的におこなっており、2010 年には 5 月には 1 名の留学生がいた（岩手大学国際交流課「岩手大学留学生集計表」平成 22 年 5 月 1 日現在）。その後の変化は【表 1】のようである。2014 年 6 月現在女子は 3 名であったが、10 月には 1 名交代し、男子学生が 1 名、女子学生が 2 名となった。2010 年以降、台湾から継続的に留学生がきている。

表 1 岩手大学における台湾からの留学生数の推移

|        | 5 月現在 (人) | 11 月現在 (人) |
|--------|-----------|------------|
| 2010 年 | 1 (1)     | 1(1)       |
| 2011 年 | 1 (1)     | 2(2)       |
| 2012 年 | 3(2)      | 3(2)*      |
| 2013 年 | 3(3)      | 4(4)       |
| 2014 年 | 3(3)      | 3(2)       |

左側数字は全体の人数。( ) 内は女子の人数。

(岩手大学国際交流課「岩手大学留学生集計表」平成 20 年 5 月から平成 25 年 11 月までの資料と「岩手大学国際交流センター」各種データ>留学生数(平成 26 年 11 月 1 日現在)より作成<sup>2</sup>)

2010 年 5 月、台湾から初めての留学生が受け入れられた当時は、岩手大学全体では、20 の国と地域から 183 人が留学していた。その中の 1 名が台湾からの留学生で、当時、もっとも多く留学生は、中国からの 105 名であった。2 位はモンゴルの 16 名、3 位はマレーシアの 15 名であった。2013 年 11 月段階では、27 の国と地域から、203 名の留学生がいた。2010 年同様、最

\*岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科

多は中国からで、111名の留学生がいた。2位は韓国で17名（2010年当時5位で7名）、3位がモンゴルとタイの8名であった。2012年以降、台湾からの留学生は、3名以上を数えている。（2010年度 No.23 岩手県留学生交流推進協議会『留学生岩手』岩手大学国際交流課資料「岩手大学留学生集計表」（平成20年-25年））

### 2-1-2 台湾から岩手県への留学状況

前頁表1に岩手大学の台湾人留学生数の変遷をみてきた。では岩手県での台湾人留学生の状況はどうか。岩手県留学生交流推進協議会事務局が毎年発行している雑誌『留学生いわて』には、岩手大学のほか、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手県立大学宮古短期大学部、岩手県立大学盛岡短期大学部、修紅短期大学、一関工業高等専門学校における国と地域別の留学生数統計が載せられている。これによると、2007年度から2012年度の統計表には、台湾からの留学生はみられない<sup>3</sup>。

### 2-1-3 台湾から日本への留学状況

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO：Japan Student Services Organization）が出している「平成25年度外国人留学生在籍状況調査結果」（2014年3月）によると、2013年5月1日現在、留学生は13万5,519人（日本語教育機関に在籍する外国人留学生は含まれない）であった。出身国（地域）別留学生数は以下のものであった。

|    |      |         |
|----|------|---------|
| 1位 | 中国   | 81,884人 |
| 2位 | 韓国   | 15,304人 |
| 3位 | ベトナム | 6,290人  |
| 4位 | 台湾   | 4,719人  |

同じく、JASSOの公式サイトで2000（平成11）年度から2014（平成25）年度までの資料から、台湾からの留学生と日本への留学生総数をみたのが表2である。これを見ると、日本へ来る留学生総数は、2000年が5万5,755人でそれから増加し、年により増減がみられるものの、2014年は13万5,519人であった。もっとも多かった2013年の13万7,756人で2000年の5万5,755人と比べると、2.5倍ほどの留学生が増加している。

それに対し、台湾からの留学生数は、2010年の5,332人で、2009年から2011年にかけて、5千人台の留学生を数えたが、その他は4千人台である。ただ2000年代は4千人台前半であった留学生が、近年は4千人台後半で推移している。

つまり、日本全体の留学生数が増加しているのに対し、それに比べると、台湾からの留学生数は4千人台から5千人台と触れ幅が小さい。国・地域別の留学生数の変遷をみると、2000年から1位の中国、2位の韓国に続いて、3位は台湾という状況が長く続いていたが、2014年はベトナムが3位となり、台湾は4位となった（独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」平成11年度-平成25年度資料より）。

表2 日本における台湾人留学生と日本の留学生総数の変遷

| (年)  | 台湾人留学生数(人) | 日本の留学生総数(人) |
|------|------------|-------------|
| 2000 | 4,085      | 55,755      |
| 2001 | 4,189      | 64,011      |
| 2002 | 4,252      | 78,812      |
| 2003 | 4,266      | 95,550      |
| 2004 | 4,235      | 109,508     |
| 2005 | 4,096      | 117,302     |
| 2006 | 4,131      | 121,812     |
| 2007 | 4,211      | 117,927     |
| 2008 | 4,686      | 118,498     |
| 2009 | 5,082      | 123,829     |
| 2010 | 5,332      | 132,720     |
| 2011 | 5,297      | 141,774     |
| 2012 | 4,571      | 138,075     |
| 2013 | 4,617      | 137,756     |
| 2014 | 4,719      | 135,519     |

（独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」平成11年度-平成25年度資料より作成

[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/fchiran.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/fchiran.html)

## 3 台湾人留学生とのフリーディスカッション

「台湾における岩手県の認知度、知名度アップのための方策等についてのフリーディスカッション」で得た意見について、以下に報告する。ディスカッションの内容は、個人が特定できないように気をつけながら編集した。

今回のフリーディスカッションに参加してもらった台湾人留学生3人は、3人も台湾の高雄師範大学で学んでいる学生である。高雄師範大学ではいくつかの海外の大学と姉妹校などの関係を結び、交換学生による海外交流事業をおこなっている。高雄師範大学でおこなわれた海外の留学への説明会に参加して、留学を決めた。いくつかの候補のなかから日本を選んだのだが、日本の中でもいくつか候補があったという。そのなかから岩手を選んだという。

3人のうち2人は2013年10月に1年滞在の留学生として岩手にやってきた。1人は2014年4月に1年滞在中の留学生とやってきた。そうした留学生たちである。

質問1. あなたが一番初めに「岩手県」のことを知ったのはいつ頃ですか。またそれはどのようなきっかけ（方法）でしたか。

台湾において、「岩手県」という県名は、東京や大阪、横浜、北海道などがよく知られているのに比べ、一般的に認知度は低い。現在岩手大学に留学している留学生たちも、「岩手県」のことは知らなかった。そんな彼女たちが、「岩手県」のことを最初

に知ったのは、東日本大震災の時だという。テレビなどで放送される東日本大震災の報道によって「岩手県」のことを知ったという。筆者も、1990年代半ばより、台湾国立の学術的研究機関である臺灣中央研究院民族學研究所 (Academia Sinica Institute of Ethnology) に滞在し、文化人類学的な調査をおこなってきた。そうした経験では、台湾人留学生たちがいうように、岩手県という県名の認知度は、一般には低いと感じている。たとえば、台湾で、人から日本のどこに住んでいるのかときかれて、岩手県と答えても通じにくい。一方、北海道の南だというところかと納得してもらえするという経験をしている。

質問 2. あなたが岩手大学への留学を決めた理由は何ですか。

日本への留学は、他にも大阪などの都会への留学も選択肢のなかにあったが、岩手にきた理由のひとつに、地方なので経済的な面や、普段の生活が都会より生活しやすい点を考えてのだったという。

質問 3. あなたが岩手県にきた時どこの空港に到着しましたか。

3人とも、成田空港に到着した。ただし出発は2人が台北(桃園)空港からで、1人が高雄空港からであった。

花巻空港から台湾へチャーター便が飛んでいるのは新聞などを見て知っているが、短期で往復する旅行者に限られており、留学目的には使えない。

また、花巻より、東京への便の方が、本数が多いので台湾から乗るのに便利だという。それに、高雄から直接飛んでいるのも便利だという<sup>4</sup>。高雄と台北は、新幹線の駅で345kmほど離れているからである。

台湾から東京への飛行機に乗ると、東京で知見を広め日本滞在経験を豊かにすることができるので、東京便を利用している。

質問 4. 岩手県(盛岡市)に住んでみて、どのような印象を持ちましたか。来る前と来た後で変化がありましたか。(街・風景の様子、人、生活、食事等、自由な感想をお願いします。)

- ・岩手県は冬が長い。
- ・四季がはっきりしている。
- ・静かで生活しやすい。
- ・岩手大学は留学生のために交流会館を用意しているので、生活費が(一般のアパートを借りるより)安くすむのがよい。

質問 5. あなたにとっての「岩手県」の印象を一言で表現するならば、どのような言葉がふさわしいですか。(自由にお答えください。)

- ・広い。
- ・自然が豊か。
- ・人が優しい。

- ・海から遠い。
- ・静かでのんびりしているし、自然が豊かなところから、年をとってからのんびりと住むのによいところ。

質問 6. あなたが台湾のご家族や友人など、身近な知り合いに教えてあげた岩手県の魅力・旅行先として進めたい観光地、食べ物等を教えてください。

#### (1)観光地

この質問に対し、先日、台湾から両親と親戚、友人などが8人やってきたという留学生がいたので、実際にどういふところに行ったのか尋ねてみた。

まず行程としては東京(成田)に到着し、岩手経由で北海道までJR東日本で往復するという旅行であったという。海外からの旅行者が使用することができるJRパス7日間を使っただけの旅であった。

岩手では、岩手公園、展勝地で開花している桜を見た。手作り村や雫石の小岩井に行き、八幡平で雪の回廊を見た。

そのあとJR東日本で青森に行き、弘前城の桜を見た。また青森のねぶた会館にも行って、ねぶたを見て来た。台湾の人は、日本で桜を見に行くのが好きである。展勝地や岩手公園など、岩手には桜がきれいな場所がある。また青森のねぶたも人気が高い。

#### (2)食事

観光地以外では、食事をする場所として、意外なところに台湾の人の人気が高いことがわかった。ディスカッションでは、台湾の人が、日本の寿司屋と居酒屋に行くのが好きだということが話題となった。その理由として、寿司は台湾でも多くの店があり、日本的な人気の食べ物となっている。現在は、台北の駅地下や各地に点在する市場などでも寿司店をみることができる。

また、居酒屋という形式の店は、台湾の伝統的なスタイルとは異なっているが、日本風な様式の店の居酒屋スタイルを売りにする店として、これも各地で見ることができる。フリーディスカッションでは、居酒屋では食べたいものを各自が注文できること、しかも少量なので、多くの品数を食べることができること、こうした点が人気であることが指摘された。

質問 7. いわて花巻空港から台湾への国際定期便(直行便)が就航した場合、どのようなプロモーション(広告・宣伝)をすれば台湾の人々が岩手県に魅力を感じ、直行便の利用場促進すると思いますか。

- ・岩手県の観光地はすばらしいけれども交通費が高い。もっと安いと思う。
- ・海外からの観光客が使えるJRパスであるが、花巻駅で個人客がJRパスを買えなかったので買える様にしてもらいたい。

- ・台湾人は花巻など温泉が好きである。
- ・台湾人は、日本に何度も来たことがある人が多く、そういう人たちは Suica を持っていることが多い。盛岡や岩手県は Suica の使用が限定的なので、もっと利用できるようにしてもらいたい。
- ・花巻駅などには道の行先表示がないので、どちらに行けばどこに行くのかが分からない。観光地などの見どころを調べようと思っても調べられない。
- ・花巻駅から宮沢賢治記念館や童話村に行こうとしたときに、行先表示がなく、困った経験がある。台湾では宮沢賢治は知っている人が少ないが、賢治記念館や童話村はおもしろかったので、もっと PR をした方がよいと思う。
- ・年配者は団体旅行が多いが、若い人たちはネットで調べて、直接ネットで宿泊施設を予約する。そうしたとき、日本のサイトを見るが、日本のサイトは日本語が多い。外国人に向けた発信を考えてもらいたい。
- ・旅行先を決めるときなど、友人から情報をもらうことが多い。そうしたときにパンフレットがあると説明に便利である。しかし岩手県の観光地にはパンフレットが少ない。外国人観光客が利用できるパンフレットがあると便利である。

#### 4 台湾人留学生への観光地認知度アンケート調査

##### 4-1 観光地認知度アンケート調査結果

台湾からやってきて盛岡に住んでいる留学生に、岩手県や東北地方の観光地にどのくらい行ったことがあるのか、あるいは知っているのか、といった観光地認知度調査を回答してもらった。回答の便宜をはかり、質問ではそれぞれの観光地を示す写真表を用意したがここでは割愛する。サンプル数が少ないので、参考にすぎないが、結果を表 3 に記した。

##### 4-2 留学生を中心とした台湾からの日本旅行

表 3 には示されないが、台湾人留学生とのフリーディスカッションのなかで、彼らが岩手に在住しているということで、彼らを頼って、台湾の家族や親戚などが、岩手にやってきていることがわかってきた。それは、ちょっとした人数になる場合もあるようである<sup>5</sup>。

##### (1)情報の入手

フリーディスカッションを通じて、知り合いが留学生を頼って日本旅行にくる時、それは留学生が日本の観光地について調べ、台湾人に発信するよい機会となっていることがわかった。

留学生たちは、観光地だったらどこに連れて行けばよいのか、

表 3 東北地方を代表する観光地の認知度調査

| 番号 | 観光地                            | 行ったことがある | 行きたい | 聞いたことがある | 全く知らない |
|----|--------------------------------|----------|------|----------|--------|
| 1  | 青森(ねぶた祭りなど)                    | 2        | 1    |          |        |
| 2  | 弘前(桜まつり)                       | 2        | 1    |          |        |
| 3  | 十和田湖・奥入瀬溪流                     |          |      | 3        |        |
| 4  | 白神山地(世界自然遺産)                   |          |      | 2        | 1      |
| 5  | 盛岡(盛岡さんさ踊り、南部鉄器、盛岡手作り村、わんこそば等) | 3        |      |          |        |
| 6  | 小岩井農場                          | 3        |      |          |        |
| 7  | 雫石(鶯宿温泉・スキー場)                  | 1        | 2    |          |        |
| 8  | 花巻(花巻温泉・宮沢賢治)                  | 2        |      | 1        |        |
| 9  | 北上(展勝地桜まつり)                    | 1        | 1    |          |        |
| 10 | 狛鼻溪舟下り、巖美溪                     | 2        |      |          | 1      |
| 11 | 平泉(世界文化遺産)                     |          |      | 3        |        |
| 12 | 遠野(遠野ふるさと村)                    |          |      | 3        |        |
| 13 | 歴史公園江刺藤原の郷                     |          |      |          | 3      |
| 14 | 浄土ヶ浜、北山崎(陸中海岸国立公園)             |          |      | 2        | 1      |
| 15 | 八幡平(国立公園)                      | 2        | 1    |          |        |
| 16 | 安比高原(スキー場・温泉リゾート)              | 1        | 2    |          |        |
| 17 | 龍泉洞(日本三大鍾乳洞)                   |          |      | 2        | 1      |
| 18 | 久慈(NHK 朝ドラあまちゃんロケ地)            |          |      | 3        |        |
| 19 | 秋田(竿灯まつり)                      | 2        | 1    |          |        |
| 20 | 田沢湖・角館(桜の花見、武家屋敷)              | 2        | 1    |          |        |
| 21 | 松島                             |          |      | 1        | 2      |
| 22 | 仙台市                            | 2        | 1    |          |        |

何が有名なのか、何を食べるのかなど、観光地の具体的な情報を取得しようとする。岩手大学では高雄師範大学から留学生を受け入れるだけでなく、留学生を送り出している。そうした台湾留学を経験した日本人が彼女たち留学生にチューターになっている場合もあり、そうしたチューターなど同じ大学の学生などに聞く事例がきかれた。

## (2)日本旅行の中の岩手観光

日本への留学生が知り合いにすることが契機となり、留学生の知り合いが、留学生を訪ねながら、日本旅行をする場合がある。岩手大学の留学生の場合、盛岡を中心とした岩手県内のほか、秋田、青森といった東北の観光地を訪ねることがある。

また、東京起点に、北海道まで行き、その途中で岩手を中心して東北を観光するという場合もあるようである。

以上から、大学に留学している留学生へ、岩手や東北地方の観光地に関する情報提供をおこなうことは、岩手の観光地情報を広げ、岩手の観光地認知度を高める大きな機会であると思われる。少なくとも、留学生はどこに行くと観光のことがわかるのか、観光地情報をとれる場所がすぐわかるようにしておく、利用しやすいと思われる。留学生は、大学生活を助ける自分のチューターに観光地をたずねることも多いので、留学生やチューターなどが、観光地情報を利用しやすいような工夫をすれば、留学元での観光地の認知度を高めることに効果があると思われる。

## 5 まとめ

今回のフリーディスカッションと観光地認知度アンケート調査をとおしてわかったことをまとめておこう。

(1)まずは台湾からの留学生についてである。日本全体で見ると、台湾からの留学生数は、日本への留学生総数のなかで、中国、韓国に次いで3番目に多いという状況が続いていたが、2013年にベトナムに抜かれ、4番目になった。4,719人で、2000年以降、4千人から5千人を推移してきた。

しかし岩手県においては、2010年以降、1人、あるいは3人で、最多が4人であった。台湾からの留学生数が少ないだけでなく、岩手県内の限られた大学にのみ留学していることがわかった。

(2)台湾の留学生がやってくることにより、彼らの家族だけではなく、親戚や友人などさまざまな人たちが岩手を訪れ、岩手県や東北地方を観光するよい機会をつくっていることがわかった。このことは、留学生が岩手県や東北地方の観光地について調べるよい機会となっていることもわかった。

(3)今回のフリーディスカッションでは、岩手に住んでいる留学生や留学生を訪ねてやってきた人たちが、どのようなことに

興味をもったのか、またどのようなことを不便におもったのか、そうしたことの一部を知ることができた。

こうした気づきの声を、もっと丹念に拾い取り上げていくことができれば、外国人観光客にとって、もっと魅力のある地域づくりができる可能性が高まる。

以上、岩手大学でおこなったフリーディスカッションをとおりして、台湾から岩手へ留学している人たちの声を聞くよい機会ができた。(1)(2)(3)で指摘したように、留学生は、自分が体験したり見聞きたりしたことを、自分の国にいる家族や友だちに紹介している。また岩手県や東北地方にきて、台湾の人たちがどう思ったのか、どう感じたのかという情報をもっている。だから、留学生に岩手県や東北地方を知ってもらうことは、大事なことだとおもう。

留学生たちの意見は、ときには私たちに耳が痛い話が含まれているかもしれない。今回のフリーディスカッションでも、岩手県の観光地は、パンフレットやウェブサイトが十分準備されていないという声が聞かれた。そうした意見は貴重なものとして、柔軟に対応していく必要を感じる。せっかく来てもらった観光客には、また来たい、友人にも知ってもらいたいと思わせる旅行を提供できれば、岩手県への観光客、東北への観光客も徐々に増えてくるのではなかろうか。そうした人気の輪を広げるためにも、留学生によく岩手県や東北を知ってもらう工夫が必要であろう。

日本には台湾から毎年多くの留学生がやってきている。しかしながらそのなかで岩手県の大学を選ぶ留学生は少ない。留学生を通して岩手県の魅力を少しずつでも台湾に広めることができれば、岩手県をおとずれる観光客の増加となり得るのかもしれない。

## 【注】

<sup>1</sup> 岩手大学ウェブサイトには、岩手大学が学術交流の締結をおこなった大学と締結時期が示されている。(「岩手大学>国際交流」<http://www.iwate-u.ac.jp/annai/koryu.shtml> 2014年6月29日閲覧)

<sup>2</sup> 岩手大学国際交流課「岩手大学留学生集計表」平成20年5月から平成25年11月までの資料を参照した。資料については岩手大学の公式サイトより資料を収集した。岩手大学にある岩手県留学生交流推進協議会が出している『留学生いわて』

(<http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyu/>)のNo.20(2007年)、No.21(2008年)、No.22(2009年)、No.23(2010年)、No.24(2011年)、No.25(2012年)、それに「岩手大学国際交流センター>各種データ>留学整数(平成26年11月1日現在)」([http://iuc.iwate-u.ac.jp/08\\_data/index7.html](http://iuc.iwate-u.ac.jp/08_data/index7.html))を使ってデータを収集した。

<sup>3</sup> 岩手大学の留学生、台湾の留学生に関して、岩手大学学務部国際課外国語専門職員の崔華月さんにいろいろご教示いただきました。

<sup>4</sup> 高雄(左営駅)と台北(台北駅)は台湾高速鉄道(新幹線)で350km足らずである。なお、台湾高速鉄道のウェブサイトでは

は、中国語のほか、英語、日本語で閲覧でき、予約も行える。「台湾高速鉄道」<http://www.thsrc.com.tw/index.html> 2015 年 1 月 30 日閲覧

<sup>5</sup> 留学生を頼って、家族や親戚など、ちょっとした人数の人がやってくることが、筆者等がおこなった 2014 年に台湾から来たチャーター便旅行社へのアンケート調査にもみられた。ここでは誰といっしょに来たのかの質問をおこなった。その結果、誰かを中心に、いろいろな人間関係が組み合わされながら、ひとつの旅行団を組織している場合もみられることがわかった（原英子 2015 「2014 年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告 1：台湾からのチャーター便旅行者を対象としたアンケート調査結果」〔『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』第 17 号〕）。

#### 【参考資料】

原英子

2015 「2014 年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告 1：台湾からのチャーター便旅行者を対象としたアンケート調査結果」〔『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』第 17 号〕

#### 【参考ウェブサイト】

- ・岩手大学「岩手大学>国際交流」  
(<http://www.iwate-u.ac.jp/annai/koryu.shtml>)
- ・岩手大学国際交流課資料「岩手大学留学生集計表」(平成 20 年-25 年)
- ・「The Iwate University Short-term International Program (IU-SIP) 岩手大学短期留学プログラム(IU-SIP)2014 年度学生募集要項」  
([http://iuc.iwate-u.ac.jp/01\\_hope/hope\\_01/data/outline\\_of\\_iusip\\_all\\_jp.pdf](http://iuc.iwate-u.ac.jp/01_hope/hope_01/data/outline_of_iusip_all_jp.pdf))
- ・岩手県留学生交流推進協議会事務局『留学生いわて』  
2007 年 12 月  
([http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data\\_journal/No\\_20.pdf](http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data_journal/No_20.pdf))  
2008 年 12 月  
([http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data\\_journal/No\\_21.pdf](http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data_journal/No_21.pdf))  
2009 年度  
([http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data\\_journal/No\\_22.pdf](http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data_journal/No_22.pdf))  
2010 年度  
([http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data\\_journal/No.23.pdf](http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data_journal/No.23.pdf))  
2011 年度  
([http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data\\_journal/No\\_24.pdf](http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data_journal/No_24.pdf))  
2012 年度  
([http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data\\_journal/No\\_25.pdf](http://iuc.iwate-u.ac.jp/suishinkyo/data_journal/No_25.pdf))
- ・独立法人日本学生支援機構  
「留学生受入れの状況 (平成 11 年～平成 15 年分)」>平成 15 年度 (2015 年 1 月 27 日最終確認)  
([http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/data\\_03.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data_03.html))  
「外国人留学生在籍状況調査」>調査結果一覧 平成 25 年度外国人留学生在籍状況調査 (2015 年 1 月 27 日最終確認)

([http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/ichiran.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/ichiran.html))  
(2015 年 1 月 27 日最終確認)

「台湾高速鉄道」

(<http://www.thsrc.com.tw/index.html>) 2015 年 1 月 30 日閲覧

#### 【謝辞】

2014 年 6 月 9 日に岩手大学学務部国際課の協力で、岩手大学国際交流センターにておこなった「台湾における岩手県の認知度、知名度アップのための方策等についてのフリーディスカッション」では、岩手大学学務部国際課のご協力や、同課の外国語専門職員、崔華月さんにお世話になりました。特に崔さんは、岩手県における台湾人留学生の状況を教えてもらうほか留学生との連絡でお世話になりました。ディスカッションには、当時、台湾から岩手大学に留学していた李倩儀さん、高鈺晴さん、謝函潔さんに協力していただきました。また、ディスカッションでは環境生活部若者女性共同推進室国際交流員の李楠さんに通訳をしていただきました。岩手県県土整備部空港課の畠山英司さんには、今回のディスカッションのコーディネートをさせていただきました。ディスカッションの司会は、岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科でリーディングマラソン室のアイスタントをしている Wang Hui Ling さんにも、貴重なアドバイスをいただきました。

今回お世話になった方々へ、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

本研究は、岩手県立大学地域政策研究センター平成 25 年度地域協働研究 (地域提案型・後期)「いわて花巻空港と台湾との国際定期便就航に向けた地域の国際化推進に関する研究」(研究代表者 原英子)の助成によりおこなわれた研究成果の一部である。アンケート調査等の作成は、岩手県県土整備部空港課との協働によりおこなわれた。